

令和2年度第2回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和2年7月9日（木）14：00～15：20

場 所：WEB会議（Zoom）のため各施設にて

出席者：11名

傳道聡子（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、宮城郁美（北部地区医師会病院）、金城美奈子（県立八重山病院）、慶田博子（県立宮古病院）、島袋百代（パンキャンジヤパン沖縄アフェリエイト）、樋口美智子（沖縄国際大学）、中山富美（沖縄県地域統括支援センター）、増田昌人（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）、山田綾美（琉球大学病院）

陪席者：1名 東恩納貴子（那覇市立病院）

欠席者：1名 伊波善之（沖縄県健康長寿課）

【報告事項】

1. 令和2年度第1回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨

資料1に基づき、令和2年度第1回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨が承認された。

2. がん患者ゆんたく会（4月～5月）

令和2年4月～5月は、新型コロナの影響により各拠点病院においてがん患者ゆんたく会は開催中止の為、現在の状況や開催の見込み等について口頭報告があった。

県立中部病院では、会場を院内会議室で再調整しており、7月27日（月）会場確保できたが、県内状況に変動あり開催案内の送付はまだ行っていないと報告があった。

那覇市立病院では、開催見込みは未定、会場含め院内調整中と報告があった。

琉大病院では、4～6月は中止し7月は参加者同士の一定距離を保ちながら開催したと報告があった。

パンキャンジヤパン沖縄では、患者さんからの開催要望多くあり6月27日（土）赤十字病院で開催した。WEBでの開催等についても検討したが、対面での開催希望が多くあった。新規参加者3名含む7名の参加があり、「話ができ気持ちが楽になった、この会は続けてほしい」との感想が聞かれたと報告があった。

3. がん相談件数（4月～5月）

資料2に基づき、令和2年4月～5月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。

北部地区医師会病院では、院内患者からの継続相談が多く、相談内容としては介護保険申請や訪問看護の調整など在宅への相談が多い傾向だったと報告があった。

県立中部病院では、新型コロナの影響による手術や術前検査の日程変更など主治医との院内調整がこれまでとは違う傾向としてみられたと報告があった。

那覇市立病院では、在宅調整やホスピス緩和ケアに関する相談が多い傾向だが、4月は医療費・生活費などの経済的相談が上回ったと報告があった。

県立宮古病院では、新型コロナの影響で外来終了後に面談を行うなど夜間対応があったと報告があった。

県立八重山病院では、4月より常勤の泌尿器科医が配置され、前立腺癌や膀胱癌の抗がん剤治療が島内で可能となり、家族のいる所で治療ができる安心感や経済的負担の軽減に繋がっている。また、新型コロナの影響で終末期においても面会制限が課せられていたことから、今までより早めに在宅へ移行調整することがあったと報告があった。

琉大病院では、治療状況の死亡項目が微増しており、患者さんが亡くなった後の家族間の不和や家族の悲嘆に対するグリーフケアの対応があったと報告があった。

地域統括支援センターでは、3月頃から病棟での対応を自粛しており、5月は勤務休止となっていた。6月からは再開していると報告があった。

4. がん相談件数集計（4月～5月）

資料3に基づき、山田委員より令和2年4月～5月の沖縄県がん相談件数集計について報告があった。今回は県立宮古病院を除く5病院での集計となっており、前年度同月と比較すると30歳以下からの相談が増加傾向にあり、就労に関する相談が徐々に減少してきていると報告があった。また、新型コロナの影響で以前より電話相談の割合が増えてきているとのことだった。

出張就労相談に関して、大久保委員より各施設での対応について確認があった。琉大病院では3月より休止していたが7月より定期開催を再開している。不定期開催になっていた期間の就労相談件数は減少傾向にあるような印象があった。那覇市立病院では、定期開催はしておらず予約時に対応する体制になっている。件数に変動はないが、電話での問い合わせは多く、患者と社労士の仲介になることもある。県立中部病院では、現在非がん患者の就労相談も相談センターで対応しているが、今後は別担当者へ引き継ぐ方針で検討中である。

5. がん相談支援センターの広報

資料4に基づき、山田委員よりがん相談支援センターの広報について報告があった。文言など訂正なければ引き続き広報活動していくとのことだった。

6. 第14回情報提供・相談支援部会

別添資料に基づき、大久保委員より第14回情報提供・相談支援部会について報告があった。今回は資料共有およびYouTubeでビデオ配信の形式で行われた。別添資料内の資料3-1「がんと共生のあり方に関する検討会」では、がん患者の自殺対策において、国がんでまとめられた地域の取り組みや院内での取り組みなど報告書が届いており、抜粋し要約できそうな部分は全体共有することだった。資料3-2「小児がん連携病院と小児がん医療」では、こども病院へかかった場合、成人になっていく時に成人がんリソースが活用されにくい現状があると説明されている。小児がんについて正しい情報を知り、小児がん情報サービスや成育医療センター、小児がんホットラインなど活用するよう案内があった。資料3-3「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」では、全国的にはピアサポートの受入が進んでない現状があり、個人的な経験の適切な開示にはトレーニングが必要であるためピアサポート養成についても研修など要されることだった。

【協議事項】

1. がん相談員実務者研修会について

資料5-1に基づき、大久保委員よりオンラインでの研修を想定した「認定がん専門相談員認定事業Ⅲ群」の取り扱いについて報告があり、Ⅲ群認定の条件に沿って企画を進めるよう周知があった。

資料5-2に基づき、大久保委員より琉大で企画している研修会について報告があり、承認された。「終末期がん患者の意思決定支援」をテーマに挙げ県外講師を招き、日程は9月頃、定員30名程度、オンラインと集合研修を組み合わせた講義形式で開催することを予定している。参加可能な部会員へ受付など対応いただきたいと依頼があった。

前年度開催予定であった那覇市立病院企画の研修会については、現在講師の日程確認中と報告があった。

県立中部病院では、妊孕性関連で検討していきたいと報告があった。

2. 令和2年度部会計画（各施策）

大久保委員より、就労支援に関する取組みについて、拠点病院以外の医療機関へと産保センターの協定先も拡大してきており、担当者での意見交換会などを検討していきたいと報告があった。

3. その他

(1) 次回開催日程について

令和2年10月15日（木）に開催することとなった。次回もWEB開催とする。

(2) 各委員より近況報告

北部地区医師会病院では、7月17日に地域統括支援センターよりピアサポーター派遣予定あり、緩和ケア看護師とも連携しながらゆんたく会を調整している。

県立八重山病院では、現在活動している患者会の方々は治療終了した方が多く、高齢化してきている。治療終了し元気な方々の中へ、今悩んでいる患者・家族が会へ参加するタイミングが難しい。

琉大でも高齢化してきており会話のギャップがあつたりする、個別の対応にて高校生の患者より若い患者会グループはないのかという意見もあつた。

パンキャンジャパン沖縄では、治療期と終末期の患者が参加され苦慮した事もあり、東京本部でも対応方法を検討していくとのことだつた。

中山委員より、各施設のゆんたく会の雰囲気と患者の年齢や性格を考慮しながら会の参加へ繋げることができたと報告があつた。

樋口委員より、新型コロナの影響で密に相談ができない場合には、お便りを送付するなどアナログな方法も考える必要があるのではないかと意見があつた。